

# 乙 頁

第20号 (通巻第4巻第6号)

1985年3月1日発行

守山市立埋蔵文化財センター

TEL 0775-85-4397

守山市服部町2250番地

◎◎◎◎◎ 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー 特 別 展 ◎◎◎◎◎  
こ あ ん な い

昭和59年度も残り1ヶ月と少なくなりました。センターが手がけた調査は昨  
年のとおり24ヶ所に達しており、今回第4回特別展として、本年度の成果を一  
堂にあつめ調査速報展と題して開催します。早春の一時をセンターでお過ごしにな  
りませんか。内容は下記の通りです。

## 記

◎ 期 間 昭和60年3月17日(日)～3月24日(日)

9:00～16:00 期間中無休です。

◎ テーマ 昭和59年度調査速報展

◎ 場 所 守山市立埋蔵文化財センター

守山市服部町 TEL 85-4397

◎講演会 昭和60年3月23日(土) 14:00～

○ 講 師 西 田 弘先生

○ 演 題 守山市内出土の古瓦

## ※※※※埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー 友 の 会 通 信※※※※

センター友の会は去る2月10日(日)に学習会を開催しました。今回は他市  
町の展示施設を見学することで、近江八幡市立郷土資料館、安土町の近江風土記  
の丘資料館、五箇荘町立歴史民俗資料館の三ヶ所を、各施設の担当者から説明を  
うけることができました。近江の原始、古代から中世、あるいは江戸時代までの  
人々の生活をつぶさに学習することができました。

## ㊦㊦㊦㊦ 遺 跡 調 査 だ よ り ㊦㊦㊦㊦

※中島遺跡の調査から！（守山市三宅町）出土遺物の図は5ページの2点です。

昭和59年/2月から発掘調査を実施している中島遺跡ではもうすぐ終了というところまで進んでいます。この調査は市民文化会館建設計画地で、その工事の事前調査です。奈良時代～平安時代にかけての遺構や遺物が見つかり、2月には帯金具が出土しました。出土したのは奈良～平安時代の大溝の中で多量の土器にまじって一点だけ発見されました。帯金具は銅製で**絞具**と呼ばれる部分です。いまでいう「バックル」の金具の部分にあたるわけです。

市内では、この中島遺跡の他に、服部遺跡で「巡方」と呼ばれるものが2点、金森東遺跡で「**蛇尾**」と呼ばれるものが一点出土しています。この金具の他には土器の表面に墨で文字を書いたもの（墨書土器）、緑釉陶器、灰釉陶器などが出土しています。豪族層が使ったと思われるこれらの遺物に対して、遺構が少なく中心地は金森町の集落に近いところではないかと考えられます。

※ 横江遺跡の調査から！（守山市横江町）

第2年目も終りに近づいてきました。このニュースでも何回か報告していますが最近の状況をお知らせします。現在は横江団地計画地のほぼ中央、やや南西よりを調査しています。このあたりはもともと一段高い畑になっていたところですが、この畑の表土を除去したところ、意外な点が明らかになりました。

- 1、畑の周囲には、畑の辺にそって溝が掘られている。
- 2、一段高い畑はもともと高く盛りあげたものである。
- 3、この段の上には鎌倉時代と考えられる建物跡がある。

要約すると以上の三点となるのですが、現在鋭意調査中ですので新たに判明すればお知らせいたします。この他にも古墳時代の建物跡も見つかり、次々と集落跡の内容が豊富になってきています。

横江遺跡の調査は約40000㎡もあるため、あと二ケ年は必要です。興味ある方は現地をこらん下さい。守山市担当は宮下です。お気軽に現地事務所までお越し下さい。

# 金森東遺跡調査報 1985.3

はじめに～調査の進捗状況について

3月に入り、降雪や厳しい冷え込みによる霜害もなくなり、春間近かを感じさせる時季となりました。早いもので、秋（10月）にスタートした金森東遺跡発掘調査も、年を越して 調査予定の最終月を迎え、調査関係者一同一層発奮しております。調査は、2月中旬以降の不順な天候にもめげず、5区の調査区のうち、最後の4トレンチの写真撮影と測量関係および余地の補足調査を残すのみという進捗状況であります。

## 3、4トレンチの調査成果

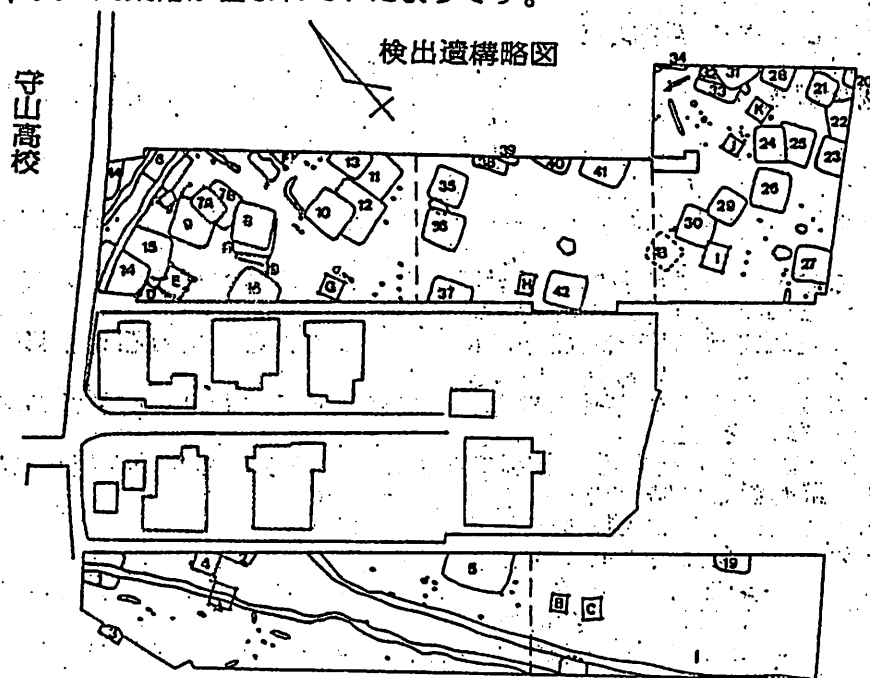
「金森東遺跡調査報」で、1、2、5トレンチの概略をお伝えしていますので、今回は残る3、4トレンチについて触れてみたいと思います。

（3トレンチ） 15棟（20～34）の堅穴住居と倉（I～K）などを検出しています。このトレンチからは、土師器にまじり須恵器を伴出する堅穴住居（22、27）や古墳時代の野洲川流域の特色の1つである、滑り石を材料にした玉類（臼玉や管玉、勾玉）や有孔円板などの生産がおこなわれた可能性のある堅穴住居（22）などを検出することができました。いずれも今回検出した堅穴住居のなかでは、最も新しい時期のものと考えられます。

（4トレンチ） 現在調査中の4トレンチからは 9棟の堅穴住居と倉1棟を検出しています。ここでは、44棟の堅穴住居で唯一、カマドを付設した42が見つっています。他の住居は床中央に炉と思われる焼土痕しか見られなかったのですが、42は 東辺の中位に焼土が見られ、それを取り除くと、煮炊きするための竈などをのせる台、支脚があらわれ、カマドの機能を持っていたと考えることができます。42は、3トレンチの22や27と同様に最も新しい時期の住居と言えます。

1～5トレンチの調査成果について

※トレンチと若干の補足調査を残していますが、今回の調査地からは44棟の竪穴住居をはじめ、倉／／棟、溝、土坑、ピットを検出することができ、現状では集落の存続期間を竪穴住居の最古の時期にあたる弥生時代後期（Ⅰ）から最も新しい6世紀前半（22、27、42）と考えることができます。竪穴住居以外の倉や溝、土坑についても、集落の生活のために設けられたものであり、弥生時代後期から6世紀前半という時期幅の中におさまるものと考えられます。また一時期に幾棟（戸）の竪穴住居で集落を形成していたかは分かりませんが、時期により少しずつ集落の中心が移っているようで、調査地から守山高校あるいは成人病センター方向に広がりを持ち、長い間集落が営まれていたようです。



#### 出土品の展示、他について

埋文センター第4回特別展に、本調査から出土した土器、石製品を展示します。竪穴住居より出土したものの一部を復元することができましたので、是非御覧下さい。次回の「金森東遺跡調査報」は、全トレンチの検出遺構、出土品について、総まとめの報告を行なう予定です。

◎◎◎ ご あ い さ つ ◎◎◎

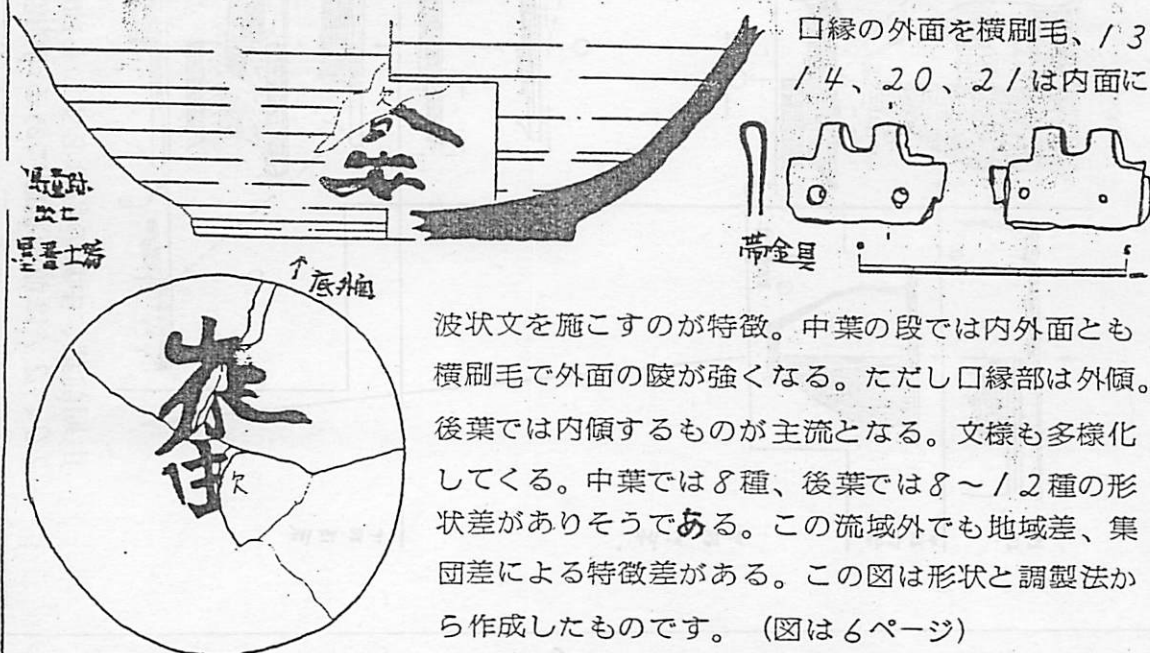
「去る1月31日夜、沢 悠光所長が病気のため、入院先病院で急逝されました。昭和59年4月1日赴任からわずか10ヶ月、センターの運営や文化財普及、啓発および友の会など積極的に業務にとりくんで頂いていた最中、入院、そして死去、急な悲報に職員一同絶句いたしました。故沢所長は昭和54、55年当時、当センター建設を援助して頂いた県教委文化財保護課長で服部遺跡の調査にも絶大な指導を得ていましたし、所長個人でも文化財の保護と啓発に積極的でした。

我々職員は、この悲報から故沢所長の意志を受けつぎ、当センターを中心に文化財の保護思想の浸透、啓発事業を積極的に推進していくよう心を新たにしています。今後ともよろしく願いいたします。 センター職員一同

※※※※※※※※※※ 野洲川流域における土器の変遷について（弥生時代前、中期の遷）

最近の調査で弥生時代中期以前の土器が多量に出土し、いわゆる近江型といわれる遷や受け口状の遷の変遷を考える上で貴重な資料であると思われるので、時期尚早の思いがあるが、一つの提案として報告しておきたいと考えます。

左側は遠賀川系といわれる土器の一部で1はヘラ描き沈線、2は口縁部に刻み目文、3は波状口縁で外面の一部を横刷毛、11は3のタイプで外面を横刷毛、4は波状



波状文を施すのが特徴。中葉の段では内外面とも横刷毛で外面の陵が強くなる。ただし口縁部は外傾。後葉では内傾するものが主流となる。文様も多様化してくる。中葉では8種、後葉では8〜12種の形状差がありそうである。この流域外でも地域差、集団差による特徴差がある。この図は形状と調製法から作成したものです。（図は6ページ）

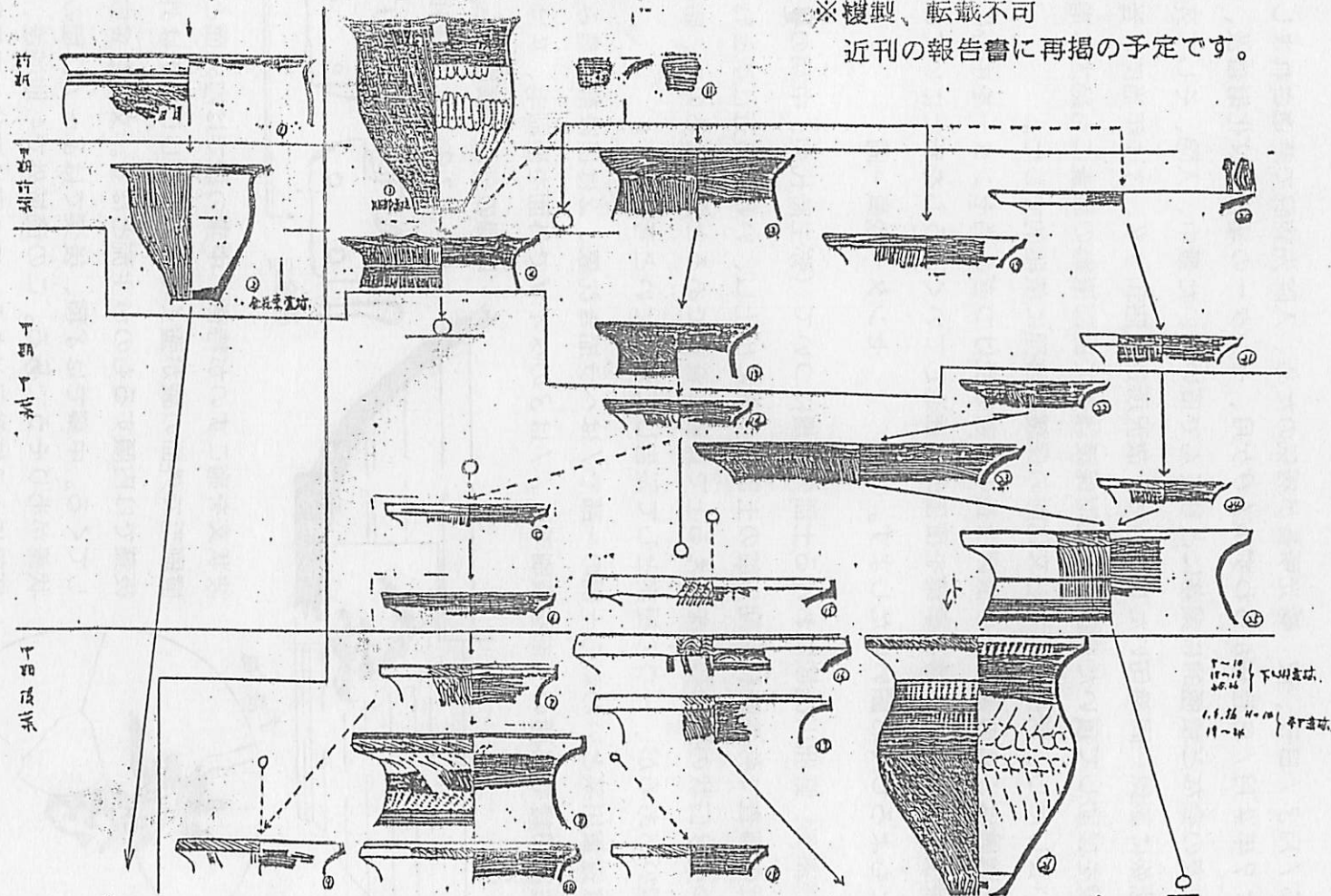


野洲川流域（下流）新石器時代の遺跡

※複製、転載不可

近刊の報告書に再掲の予定です。

野洲川下流域新石器時代の遺跡



中期前葉、中葉の段は必ずしも前後関係を示すものではない。たとえば4、12、13、14  
20、21は並行状態にある可能性がある。5~25の中葉もこの章。ただし後葉は除外。